

明治維新 150 年!!

幕末、開国の決断をした井伊直弼をテーマに彦根とその周辺に遺された事跡から彦根の明治維新を巡る旅です。今回は、いままで触れられることがなかった「井伊直弼の仇を討った男」についても語ります。

Schedule

◆3月3日(土) 13:00 彦根駅東口集合

13:10(バス)→13:15 玄宮園【直弼の生まれた梶御殿を望む】→13:50(徒歩)→「六」の石垣→遠城謙道碑・井伊直弼銅像→花の生涯碑→直弼句碑→戊辰戦争碑→14:50いろは松駐車場(バス)→15:00彦根港→15:10多景島クルーズ(上陸30分)多景島【題目岩・誓の御柱】→16:20彦根港着・16:30(バス)→16:40清涼寺【直弼が修行した寺・井伊家菩提寺】→18:00(バス)→18:15夕食 伊勢幾(直弼直筆のレシピを再現した夕食)【講談(旭堂南海師)「大老の仇を討った男」】→20:30(バス)→20:45 ホテル泊

◆3月4日(日) 9:00ホテル出発

9:10埋木舎(直弼の青年時代を過ごした家)→9:50(バス・いろは松駐車場)→10:05天寧寺((直弼の愛した寺))【井伊直弼供養塔・長野野膳の墓・村山たかの碑・大東義徳碑】→11:00(バス)→11:30岡村本家(直弼の命を受け創業)【当主岡村氏のお話・酒蔵見学】→12:00昼食 遊亀亭【小泉凡先生のご講演】→13:30(バス)→13:45豊会館(又十屋敷)(豪商の旧邸。直弼の彦根藩を財政的に援助)→14:30(バス)→15:00高源寺【村山たか肖像画の見学】(小説のなかでは直弼の恋人)→15:40(バス)→16:00彦根駅→16:20米原駅



▶井伊直弼朝臣銅像

井伊直弼の章 其二

●ゲスト 小泉凡先生(民俗学者・小泉八雲曾孫)・旭堂南海師(講師)

2018.3.3 土 - 3.4 日

モニターツアー参加者募集 20名・最少催行人員 15名

旅行代金(お一人様) **¥25,000**(税込)

1泊3食付き(3月3日夕食・3月4日朝食と昼食)

多景島クルーズ乗船料・施設拝観料・旅行傷害保険

彦根ゴーストツアー kuuno.jp

■旅行企画・実施 近江トラベル株式会社ツアーセンター

〒522-0007 滋賀県彦根市古沢町181

tel.0749-24-8103・fax.0749-24-5251

滋賀県知事登録旅行業第2-197号(社)全国旅行業協会会員
旅行業取扱管理者 河合達也

■企画協力 空の旅人舎

〒522-0064 滋賀県彦根市本町2-3-3

tel.0749-24-8781

tel.090-3267-7712(杉原)

協力 彦根市・滋賀大学



目に見えないモノを見ることができるかもしれない旅をしませんか? 現世(うつしよ)と幽世(かくりよ)の狭間、湖東・湖北の伝承を追いかけ文化遺産を巡るTourに出かけませんか?「空(くう)の旅人舎」がご案内いたします。

井伊直弼の章 其二

井伊直弼の生涯 DIGEST

生年：文化12年(1815)10月29日／没年：安政7年(1860)3月3日／父：井伊直中／母：お富の方／菩提寺：豪徳寺(東京都世田谷区)

●彦根藩井伊家第11代直中の14男として生まれる。父直中が亡くなると榎御殿から、城下の中堀端に面した尾末町屋敷に居を移した。直弼はその屋敷を埋木舎と呼び、大名の庶子として、槍術や居合、和歌、茶道に明け暮れる修養の毎日を過ごす。居合では新心流から独自の流派を開き、茶道では石州流から一派をおこした。

●直弼は、江戸幕府草創期を理想とし、幕藩制秩序の再構築と公武一致による幕府の再生を目指し、幕府評議や将軍の意思を重視する復古的な考えを持っていた。弘化2年(1842)、直弼32歳。長兄直亮の世継であった兄直元が早逝し、彦根藩の世継となり江戸に移る。嘉永3年(1850)、兄直亮が死去し、彦根藩主となった。

●嘉永6年(1853)のペリー来航後、江戸城内では病弱だった13代將軍徳川家定の継嗣問題が表立っていた。直弼ら溜詰の大名など南紀派は、御三家の一つである和歌山藩主徳川慶福(よしとみ)を擁したのに対し、徳川斉昭ら一橋派は、一橋慶喜(後の徳川慶喜)を擁立した。開国か攘夷かの政策論争に、南紀派と一橋派の政権抗争が絡み、朝廷や諸藩を巻き込んだ政争となっていく。

●安政5年(1858)直弼は大老に就任。日米修好通商条約調印に踏み切る。直弼は、幕府の政策を遂行するため一橋派など反対派を取り締まるため「安政の大獄」を断行した。直弼は実に厳しい態度で臨んだ。その結果、尊攘派からの怨嗟が高まり、安政7年(1860)、江戸城桜田門外にて襲撃され命を落とす。

●直弼は暗殺計画を事前に承知していたといわれている。勝海舟は『開国起源』という書物で直弼の人物像について「進んで難衝(なんしゅう)に当り、一身を犠牲に供し、毫(みじん)も畏避(いしゃ)の念なく、鞠躬盡瘁(きくきゆうじんすい)以て数世知遇(すうせいちぐう)の恩に報ぜん」と欲す、豈大丈夫(あにおおますらお)と謂わざるべけんや」と記している。直弼は、幕末の大老として、「私」の立場を捨て、常に「公」を優先させ、この国の未来に尽力した人物である。



天寧寺

井伊直弼公の好みで作られた石州流庭園。井伊直弼公供養塔、長野義言歌碑、大東義徹碑などがある。木造五百羅漢で有名。



岡村本家

岡村家第7代岡村太内が安政元年(1854)、井伊直弼に酒造りを命じられ、第8代岡村多内が創業した造酒屋。酒銘「金亀」。



豊会館(又十屋敷)

廻船業を営み「あけぼの印の缶詰」で知られた、藤野喜兵衛喜昌の屋敷。井伊直弼から拝領の武具や調度品の数々が陳列展示されている。



高源寺

井伊直弼と、長野主膳の死後、二人の菩提を弔い続けた村山たかの肖像画が遺る。総門は佐和山城の裏門を移築したもの。

TOUR DIGEST



埋木舎

彦根藩主井伊家の屋敷跡。「埋木舎」の命名は井伊直弼。17歳から藩主となる15年間を過ごした屋敷。



玄宮園

井伊直弼が育った榎御殿に隣接する大名庭園。楽々園(榎御殿)とともに「玄宮楽々園」として国の名勝に指定されている。



清涼寺

井伊直弼の墓所として直孝が開基した曹洞宗永平寺派の寺院。江戸時代、修行道場としての有名。直弼は清涼寺で禅の修行を行った。



多景島

島には「南無妙法蓮華経」の文字が彫られた「題目岩」がある。桜田門外の変で直弼が討たれたときには、題目岩が鮮血をにじませたと伝えられている。

井伊直弼公直筆の献立を基にした懐石料理(3月3日夕食)

献立はわび茶を目指した直弼公らしいシンプルな内容ながら、当時は貴重だったであろう食材をさりげなく使い、まさに『一期一会』のおもてなしを感じさせる。(伊勢幾 FOODYASより) 桜田門外の変のあった3月3日に直弼公を偲ぶ。



夕食の後は、旭堂南海師による講談「大老の仇を討った男」

映画「石塚樞の仇討ち」ではなく、近江鉄道初代社長大東義徹の兄小西貞義が、大老の仇をとっていた。旭堂南海師が新作講談を披露。乞うご期待!!

彦根ゴーストツアー Guest Profile

小泉 凡(こいずみ・ぼん)

民俗学者。島根県立大学短期大学部教授、小泉八雲記念館館長、焼津小泉八雲記念館名誉館長。2008年には「松江ゴーストツアー」を提案し、その後、彦根ゴーストツアーの展開にも関わる。近年では、八雲の足跡をたどり世界中のゆかりの地でハーンの「オープン・マインド」を検証、発信する様々なイベントを開催し、都市間の緩やかな連携を築きつつある。小泉八雲の直系の曾孫にあたる。



旭堂 南海(きょくどう・なんかい)

上方講談師。兵庫県加古川市出身。大阪大学文学部で国文学を専攻。大衆芸能に興味を持ち、落語、浪曲、最後に講談にたどりつく。在学中に出会った、3代目旭堂南陵に1989年に入門。現在、上方講談協会会員。「南海」という名は師匠3代目南陵の由緒ある前座名。当代は2代目にあたる。大阪大学時代には妖怪や漂泊の芸能に興味を抱き、歴史と民俗学を学ぶ。1998年「咲くやこの花賞」を受賞。

